

## 【経営の概要】

バラ（ロックウール栽培） 22 a

## 【対策の内容】

ヒートポンプエアコンを利用したバラ栽培を四国で初めて導入。重油暖房機と併用し、冬季の暖房とするだけではなく、夏季の夜冷に利用。通常生産量が低下ないし停滞する夏季に、市場出荷に十分な品質を確保し慣行栽培以上に生産することが可能となった。冬季の密閉された夜間ハウスで重油暖房機が燃焼しない状況では、バラの呼吸等によりハウス内湿度が高まり、病虫害発生が助長されることが懸念されるため、夜間は1時間毎に重油暖房機を強制燃焼させ、相対湿度の低減を図っている。ヒートポンプと同時に循環扇を導入、温湿度のムラを発生させないように24時間稼働させ、ハウス内環境を一定に保っている。

## 【対策の実践効果】

	取組前（A）	取組後（B）	B/A
燃料の種類と使用量	A重油：44,114L	A重油：25,000L	57%
加温に係る燃料経費①	2,588,000円	1,600,830円	—
対策に係る追加費用②	—	406,000円 (電気代)	—
①+②	2,588,000円	2,006,830円	78%

(表中は22 aでの数値：ヒートポンプ導入経費は含まず)

前年比で19,000 Lの重油削減でCO2排出量を削減。

エアコンにより栽培環境を制御することで季節による温湿度変化が小さい環境下でバラを栽培できる。冬季の暖房コスト低減だけでなく、高品質化と夏季の生産性向上がメリットとして大きい。

## 【今後の課題】

- ※ 生産現場における営農上の課題：本事例は、花き経営に対する強い意欲や意志を具え、後継者を擁し、かつ、投資に踏み切る経営力のある生産者の事例である。ヒートポンプ導入、多層被覆およびバイオマス燃料暖房機導入等の補助事業はあるものの、採択要件を満たす生産者や生産組織は当管内では該当がなく、取り組みも困難である。今後も原油高騰による様々な生産資材の値上がりに歯止めがかかりそうにない情勢では、生産者（特に若い生産者）の他産業への流失に拍車がかかることが懸念される。
- ※ 普及指導センターによる指導上の課題：ヒートポンプ導入後、ハウス環境（温度・湿度）の大幅な変化が予想され、バラの生理に与える影響が懸念されたため、温度および湿度のモニタリングを継続的に行った。その結果をもとに生産者に対し助言を行ってはいるものの、（バラハウス環境制御について）常識的な数値目標を維持する程度の助言であり、ヒートポンプエアコンの能力を最大限に発揮させているか不明である。ヒートポンプエアコンによるバラハウス環境制御に関する、公的機関による試験データなどがあれば取りまとめてもらいたい。

## 【問い合わせ先】

愛媛県 東予地方局産業経済部今治支局産地育成室 電話：0898-23-2570